

CONTENT

第1章:心の疲労を画像で診断

- ◇誰もが患うありふれた“うつ状態”
～うつ状態をもたらす様々な心の病～
- ◇山下分類が示す4つの心のパターン
～ストレスに対する自律神経の反応～
- ◇三次元画像で診るうつ病像
～現状でもっとも実現性の高いうつの客観的指標～

第2章:ココロの疲労と画像で向き合う

- ◇検査の手軽さ
～普段通りの生活をしながら検査ができる～
- ◇検査費用の安さ
～誰もが受けやすい検査に～
- ◇診断の正確さ
～自律神経は雄弁に語っている～

第3章:精神科医を悩ませる“うつ状態”の正体

- ◇うつの画像診断における新たな発見
～心因反応にもいろいろなタイプがある～
- ◇パターン2に属する4つのサブタイプ
～各タイプの見分け方とその特徴～
- ◇正確な診断が的確な治療を生む
～大切なのはピンポイントの処方と環境調整～

第4章:パターン2に属する4タイプの症例群

- ◇タイプ1の症例(Case1～Case4)
～LF成分が著しく亢進するタイプ～
- ◇タイプ2の症例(Case5～Case8)
～HF成分が著しく亢進するタイプ～
- ◇タイプ3の症例(Case9～Case12)
～LF成分は亢進するが、HF成分は正常なタイプ～
- ◇タイプ4の症例(Case13～Case15)
～LF成分が亢進する一方、HF成分が低下するタイプ～
- ◇うつ病性障害と双極性障害の治療例
(Case16～Case18)
～環境調整と薬物治療が奏効する～

第5章:そしてうつの画像診断は新たな領域へ

- ◇非定型うつ病への応用とその取り組み(Case19)
～非定型うつ病はうつ病性障害の仲間と言い難い！～
- ◇今後の研究課題として(Case20～Case21)
～難治性のうつ病性障害にも光が見えた！～